

第1学年社会科学学習指導案(地理的分野)

日 時 平成25年10月22日(火) 5校時
場 所 盛岡市立見前南中学校 1年2組教室
生 徒 男子19名、女子14名、計33名
指導者 畠山 博憲

1 単元名 北アメリカ州「工業の発展と工業地域」(『新しい社会地理』東京書籍)

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

世界の諸地域に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、様々な地域又は国の地域的特色をとらえる適切な主題を設けて追求し、世界の地理的認識を深めさせるとともに、世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や方法を身につけさせる。(地理的分野2内容(1)エ)

(2) 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	世界の様々な地域の調査とその地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、捉えようとしている。
社会的な思考・判断・表現	世界の様々な地域的特色捉える適切な主題を設定し、世界の様々な諸地域の調査を行う際の視点や方法を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
資料活用の技能	世界の様々な地域の調査と地域的特色に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
社会的事象についての知識・理解	世界の様々な地域の調査について、地域的特色とともに世界の様々な調査を行う際の視点や方法を理解し、その知識を身に付けている。

(3) 単元における言語活動

本単元は、世界の中の各州の面積・人口・GDPの割合を把握したあと、「世界の姿」や「世界各地の人々の生活と環境」で学んだ基礎的な知識や技能を基盤に、自然環境・歴史と文化・産業の面から州の様子を大観する学習を進める。その際、それぞれの事象に対して根拠を明確にしながらか論理立ててまとめ、グループ間の交流を通して追求を深めて行くことが活動の中心となる。また、複数資料からの読み取り・筆記や論述が中心の言語活動となるが、単に教科書からあるいは資料からの写し取りや発表に終始することなく、話し合いのねりあいの中で新たな気づきや疑問点を持たせたり、社会的国際的な変容に気づかせる中で多面的・多角的な追求活動につなげていきたい。

3 単元について

(1) 子どもの実態

2つの小学校からの申し送りでは、社会科を得意とする生徒、社会好きが多い状況である。しかしながら、恥ずかしがりの生徒が多いせいか社会科の単元授業全般においては、積極的に挙手発言や発表、つぶやきなどをする生徒は少なく、おとなしいイメージを受けやすい。また、ノートを上手に取ったり・整理することについては、個人差が多少見られ、指導の中で「生きる力」の一環として丁寧に定着させようとしてきているが、まだまだ時間をかけなければいけない生徒もいることも事実である。ここでは、地理的分野の学習を通して核になる生徒を授業展開のきっかけに積極的に発言する生徒を拡大していき、一人ひとりに有用感を体感させつつも、社会科における課題解決の授業の楽しさ・おもしろさを全体的に共有させ、「その国に行ってみたい。」「調べておもしろかった。」「話しあって楽しかった。」などと思えるような生き生きとした学習につなげていきたい。

(2) 教材について

学習指導要領では、(1) -ウ「世界の諸地域」に関して、六つの州を取り上げることが示され、「主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させる」とされたことに留意することになっている。すなわち、動態地誌学における地理的事象を課題追求的に学習させるにあたっては、学習指導要領解説解説編 p 36 の（内容の取り扱い）において下記の通り記述されているように、

「様々な資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したりするなどの作業的な学習活動を取り入れること。また、自分の解釈を加えて論述したり、意見を交換したりするなどの学習活動を充実させること。」

と示されており、北アメリカ州、特にアメリカ合衆国を取り上げて学習することにより、地理学における一般的共通性と地方的特殊性があることを思考能力と表現能力を通して会得させたい。また、学習指導要領では、さらに地理的分野で活用できる資料として土地利用などを表現した「一般図」と工場分布などをグラフ化した「主題図」を取り上げていることから、身近にある教科書掲載の分布図や写真などをもって、資料の読み解きや用語資料の読解力を通しながらアメリカ合衆国の工業の地方的特殊性を勘案させつつ、その地域の特徴の意見交換と課題解決の検証を意識的に行うことにより、現代アメリカ合衆国の工業の変化をグループでの課題解決能力と自力での課題解決能力の相互作用を用いて記述乃至論述させることをもって本時の課題解決に迫ることができると考える。

(3) 指導について

生徒の実態と本単元で取り扱う教材を斟酌して、今までの既習事項を活用させながら多様な意見を出させる授業を展開したい。とりもなおさず、課題解決的な学習を展開することによって生徒の見通し(仮説)に沿った授業展開を想定させつつも、さらに全員が従前の固定観念的なグループから異種グループでの授業形態の相互作用的集団に積極的に関わらせること(協同学習の必然性)によって自己肯定感と自己有用感を同時に体感させたい。また、新聞資料・グラフなどの読み取りの処理・加工能力や要約力と読解力、そして聞き取り能力と簡潔な伝達能力を涵養させた上で

生徒による主体的な学習へと導きたい。

<教材の関連と発展>

小学校第5学年

「わたしたちの生活と工業生産」
 ・自動車を作る工業
 ・工業生産と工業地域
 ・工業生産と貿易

中学校(地理的分野)

「世界の諸地域」
 ・アジア州
 ・ヨーロッパ州
 ・アフリカ州
 ・北アメリカ州
 ・南アメリカ州
 ・オセアニア州



小学校第6学年

「アメリカと日本」
 ・アメリカの人々の生活
 ・世界の大国 アメリカ

4 単元の指導計画と評価計画(全4時間)

次	時	主な学習活動	評価	主な言語活動
1	1	1, 北アメリカ州をながめ ・北アメリカを①アメリカ・カナダ、②メキシコ・中央アメリカ・西インド諸島の2つの地域に分けて、言語と産業について違いを説明してみる。	<input type="checkbox"/> 北アメリカの自然、文化、産業の特色について、雨温図、分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付けようとしている。	・資料を活用して言語、産業などの違いについて説明する。
2	1	2, 広大な国土と工業化した農業・アメリカは多様な農産物を大量に生産できる理由を、気候・生産方法・経営者のそれぞれの特	<input type="checkbox"/> アメリカの大規模で合理的な農業の特色を、写真、グラフ、分布図などから読み取ることができ	・グラフなどの特色から大量生産できる理由を読み取る。 ・分布図などから大

		色から説明してみる。	る。 <input type="checkbox"/> 思 アメリカが多様な農産物を大量に生産できる理由を、気候、生産方法、経営者のそれぞれの視点から考察することができる。	量生産できる理由を説明する。
3	1 (本 時 1 / 2)	3, 工業の発展と工業地域 ・アメリカの①太平洋岸や五大湖沿岸、②サンベルトの 2 つの工業地域について、主な工業の種類とそれが発展した理由について、説明する。	<input type="checkbox"/> 技 アメリカで発展した重工業や先端技術を用いた工業の特色を、写真、グラフ、分布図などから読み取ることができる。	・ 2 つの工業地域について、種類と発展した理由を話し合う。
	2	4, 写真や地図から、アメリカ合衆国が様々な人種や民族から構成されていることやその地域的特色を読み取ることができる。	<input type="checkbox"/> 知 アメリカの工業は、広大な国土と豊かな資源に加えて、ヨーロッパやアジアからの移民の存在によって発展してきたことを理解できる。	・ 新聞記事などの資料から、アメリカ経済発展は移民の存在が大きいことを捉える。
4	1	5, アメリカで生まれた生活・文化・北アメリカではどんな産業が盛んなのか、アメリカの工業を参考に説明する。	<input type="checkbox"/> 関 アメリカの生活文化が、世界の国々に与えている影響について関心を持つことができる。 <input type="checkbox"/> 思 大国アメリカ合衆国に着目して、どのような産業(特に農業、工業を中心に)が盛んなのか考察することができる。	・ 写真資料から、アメリカの文化などについて説明する。 ・ 産業の特色を説明する。

5 本時について（1／2時間目）


（1）本時の目標

アメリカ合衆国の工業はどのように発展し、現代の世界にどのような影響を与えているのか論述できる。

（2）本時の評価規準

観 点	評価規準（B）	（B）を実現していない学習者への手立て
資料活用の技能	・写真、グラフ、分布図などからアメリカで発展した以前からの重化学工業がサンベルトといわれる地域に移行したことを読み取り、ノートなどにまとめ、アメリカ合衆国の工業の変容を捉えている。	・資料の変化に気づかせる。 ・調べた事象を概括的にメモできるように指導する。

（3）本時の展開

段 階	学習内容 と 学習活動	指導上の留意点（○）評価（◇） 言語活動（*）
導 入	1, 前時の復習 2, 世界の工業製品出荷額の表からわかることを発表する。 3, 課題を設定する。	○簡潔に既習事項の確認をさせる。 ○『主な国の工業製品の出荷額』（世界国勢図会 2010）
10		* 
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 世界有数の工業国であるアメリカ合衆国の工業には、どのような特色があるのだろうか。 </div> 4, 根拠を持って予想を立てる。 ・アップル社などのコンピューターが発達しているのではないか。 ・自動車産業が盛んなのではないか。 ・広い国土で、資源が多いのではないか。 5, 『工業生産額の割合』の地図から変化を読み解く。 ・1960年は中西部と北東部が発展していた。 ・2006年には北西部や南部の工業が発展している。 6, どういう変化なのかをさらに理解するために、教科書で関係する箇所を線を引きながら、聞く。	* 全員に書かせ、2～3名に発表させる。 ◇工業の特色を大まかにつかんでいる。 ○パーソナルワーク 思 ◇教 p 78 図 3 を読み解いている。 ○1960年と2006年の特色と理由、背景を比較させ、発表させる。 ○パーソナルワーク 資 * 箇条書きで記述することをアドバイスする。 ○教科書 p 78～79 を範読する。 ◇原因がわかる箇所に線を引いている。 ○パーソナルワーク 思

35	<p>7, 読み取った教科書を再度読み、グループで原因や理由を話し合い、記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本やドイツの発展 ・鉄鋼、機械産業の低下 ・エレクトロニクスやコンピューターの発達 ・サンベルトでの航空宇宙産業の発達 ・シリコンバレーの発達 <p>8, 鋳工業地域の分布図から発展した背景を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五大湖周辺の豊富な資源や水運 ・サンベルトに広がる新しい工業地域 ・IT 産業へ重心を置いた変化 <p>9, アメリカ合衆国の工業は重化学工業から IT 産業に移行したことをノートにまとめ、発表する。</p>	<p>* 記述を簡条書きで書かせ、意見交換させる。 資</p> <p>◇工業の変容の特色を論述できている。</p> <p>◇全部の班で活発に意見交換できている。</p> <p>* 答えを簡潔にまとめ発表させる。</p> <p>○ 1960 年と 2006 年を区別して簡条書きに記述させる。</p> <p>○ グループワーク (4 人)</p> <p>○ 教 p 79 分布図『アメリカ・カナダの鋳工業地域』に注目させる。</p> <p>○ 挙手発言させる。</p> <p>○ 教 p 78 写真 (シリコンバレー) と p 194 写真 (中京工業地帯) と比較させ、違いに気づかせる。 思</p> <p>◇ 課題が解決できたか。</p> <p>○ クラスワーク</p>
終 結 5	<p>10, 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習でわかったことを 2～3 人が発表する。 <p>11, 次時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移民が貢献していることに興味を持たせる。 	<p>○ 本時の学習を通して、わかったことやもっと知りたいことを書く。</p> <p>* 時間があったら発表させる。</p> <p>○ 次時、アメリカの生活・文化・移民を学習することを告げる。</p>

(4) 板書計画

日付 ～ 学習課題 ～ (予想)	
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピューター ・自動車産業 	
1960 年	2006 年
< 特色 > 中西部・北東部の生産額が多い。	< 特色 > 太平洋岸と南西部の生産額が増えている。
< 理由 > 資源が豊富にある。 五大湖の水運	< 理由 > サンベルトに展開 (北緯 37 度以南) 資源の変化
< 背景 > 自動車産業がさかん	< 背景 > IT 産業がさかん Google 航空・宇宙 など